

精神科認定看護師実践報告

精神科認定看護師は全国のさまざまな施設で、質の高い看護実践に取り組んでいます。その現場での実践内容を紹介します。
*なお、倫理的配慮として個人が特定されないよう、事例には改変を加えています。

精神科認定看護師 JOURNAL

キャプランによる コンサルテーションの定義

コンサルテーションの方法を確立させた G・キャプラン (Caplan) によると、コンサルテーションとは「患者のケアを改善するための 2 人の専門家間の相互作用のプロセスである」と定義されています。そのため、コンサルテーションを成立させるためには、コンサルタントとコンサルティ (相談・依頼をする人) が、ともに問題の明確化と解決に向かう協働関係が必要となります。

多飲症についての コンサルテーションの実際

印象的だった実践として想起されるのは、多飲症についてのコンサルテーションです。コンサルティが相談に至る背景には、組織や職種の複雑さ、利害の葛藤、人の感情など、複合的な要素が絡みあうことによって問題が不明瞭となっている場合があります。そのため、問題の本質を見極められるよう、コンサルティとともに問題の明確化にあたりました。その結果、まずは多飲による行動制限を最小化することをめざすこととなり、当該病棟において学習会を開催することとなりました。

学習会では多飲症についての基礎知識について触れつつ、患者に適した申告飲水やリミット体重の設定など、個別性を重視したかわりを提案しました。また、この学習会には主治医を含めた多職種にも参加してい

ただき、多職種チームの考えも統一できるように配慮しました。さらに、学習会後はコンサルティとともに支援計画の実行と結果の評価をくり返し、関係の終結であるターミネーションをめざしました。

このコンサルテーションによってすべてが解決したわけではありませんが、職種や領域の垣根を超えた協働を実現することができた実践でした。



当院の理念の実現に つながることをめざして

当院には看護部委員会として認定看護師会 (精神科認定看護師 6 名在籍) があり、コンサルテーション活動も役割の一つとして担っています。

コンサルテーション活動の課題としては、活動実績が年間数件程度にとどまっていることがあげられます。

当院職員にコンサルテーションについて調査したところ、「どのような手順で相談したらいいのかわからない」「こんな内容で相談していいのか悩む」といった意見が聞かれました。

そのため、コンサルテーション依頼のための相談手順を含めた書式を作成する、院内共有パソコン上に相談窓口を設置するなど、誰もが気軽に相談できる環境を整えるために知恵を絞っております。

当院におけるコンサルテーション活動はまだまだ発展途上ですが、この活動が当院の「患者さん一人ひとりの人権を尊重し、県立病院として求められる良質な精神医療を提供するとともに、地域の関係機関と連携し、栃木県の精神医療の健全な発展に貢献します」という基本理念の実現につながるよう、今後も日々活動していきたいと思っています。



朝倉為豪 (あさくら・ゆきひで)
地方独立行政法人栃木県立岡本台病院
精神科認定看護師 (栃木県) (2019 年登録)

臨床経験が 10 年を超えたら、「自分の看護に自信がもてるか?」という思いが強くなるのを感じました。そこで、エビデンスに基づく看護実践がしたいと考え、精神科認定看護師を志しました。